

2025 年度日本農業史学会・学会賞候補業績募集および

2026 年研究報告会(個別報告募集)のお知らせ

会員各位

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日本農業史学会より標記の件について、以下の通りお知らせします。

(I) 2025 年度日本農業史学会賞（学会賞・奨励賞）候補業績の募集

以下の通り、2025 年度日本農業史学会賞（学会賞・奨励賞）候補業績を募集いたします。

【学会賞】 (1) 対象者：優れた研究業績を公刊した 40 歳以下の会員（研究業績刊行時点）

(2) 対象業績：過去 2 年間（2024 年 1 月～2025 年 12 月）に公刊された著書およびそれに準ずるもの

【奨励賞】 (1) 対象者：将来の発展が期待される研究業績を公刊した 40 歳以下の会員（研究業績刊行時点）

(2) 対象論文：過去 2 年間（2024 年 1 月～2025 年 12 月）に公刊された論文およびそれに準ずるもの。

【応募方法】：本会会員の推薦によります（著者自ら推薦することを妨げない）。推薦に当たっては、所定の推薦書を付してください。一度対象となった業績の再応募は認められませんが、同一人物でも別の業績であれば差し支えありません。

推薦書および対象となる業績（著書の場合 1 部、論文の場合 5 部（コピー可））を事務局までご送付下さい。締切りは、2026 年 1 月 31 日といたします。

「推薦書書式」は、学会 HP（学会規約→日本農業史学会賞表彰規程細則→「別添書式（学会賞推薦書）」または「別添書式（奨励賞推薦書）」）からダウンロードしてください。

<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/institution.html>

学会賞推薦書：<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/doc/suisenshosiki1.doc>

奨励賞推薦書：<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/doc/suisenshosiki2.doc>

なお、学会賞と奨励賞はそれぞれ別の書式を使用することになります。ご注意ください。

(II) 2026 年日本農業史学会研究報告会に関するお知らせ

2026 年の日本農業史学会大会は対面方式にて行います（ただし午後からの大会シンポジウムは Zoom にて中継する方向で検討しています）。また懇親会の開催を予定しています。

研究報告会のプログラムや会場案内は、2 月上旬にお知らせする予定です。

記

日時：2026 年 3 月 27 日（金） 午前：個別報告／午後：大会シンポジウム

会場：鳥取大学・鳥取キャンパス（農学部 1 号館 2 階 第 1 講義室・大セミナー室）

①個別報告の募集について

個別報告をご希望の方は、下記要領にて電子メール(ないし郵便)で学会事務局までお申し込みください。

1) 必要書類：申込用紙（氏名、所属、報告タイトル、連絡先、メールアドレス）

および報告要旨（1,000 字以内）。書式は任意です。

2) 申込期間：2025 年 12 月 19 日（金）～**2026 年 1 月 31 日（土）**

3) 申込先：学会事務局まで。

メールの場合：office@agrarian-history.sakura.ne.jp

郵送の場合：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻比較農史学分野気付

日本農業史学会事務局まで

なお、報告時間は最長で 50 分（報告 40 分、質疑応答 10 分）を予定しています（ただし報告者数が多い場合には短縮されることがあります。あらかじめご了承ください）。

会員各位の積極的な応募を期待しております。大会プログラムは 2 月上旬にメールにて改めてご案内する予定です。

②2026 年日本農業史学会シンポジウム

「農村メディア」研究の展望—戦後『家の光』を中心に—

オルガナイザー：安岡健一（大阪大学）

【趣旨説明】

本シンポジウムでは、戦後日本農村の歴史を「メディア」に着目して論じたい。戦前にも農家を主な読者とするメディアは生まれていたが、戦後においてはメディアの量や種類が大きく増加する。雑誌や新聞だけでなく、有線放送や幻燈・映画など音声・映像メディアが各地で展開した。これらは全国レベルのものから町村レベル、より小さなレベルのものまで重層的だった。メディアの持つ人と人をつなげる機能を考えるとき、農村にとってその存在は無視できない重みを持つのである。

ここでは、「農村メディア」を研究する意義を提起するとともに、とくに 2025 年に創刊 100 年を迎えた雑誌『家の光』を取り上げる。これまでも戦前の『家の光』については誌面分析を中心とした研究が蓄積されてきた。戦後になると、編集や経営にかかわる資料から、メディアに何が記述されたかだけでなく、メディアがいかに作られ、普及していったかという過程を立体的にとらえることができる。加えて、内容面でも音楽／音曲に注目するなど従来のテキスト中心の分析を超えて、メディアの影響を捉えたい。

【報告者とコメンテーター】 （報告タイトルはいずれも仮題です）

趣旨解題：安岡健一（大阪大学）「「農村メディア」研究の可能性」

報告者：高橋直央（東京大学大学院）「戦後家の光協会の経営史的分析」

坂口正彦（大阪商業大学）「1950・60年代の『家の光』における作り手と読み手の相互作用」

輪島裕介（大阪大学）「『家の光』から戦後農村芸能／歌謡を再考する」

コメント：福間良明（京都大学）

司 会： 徳山倫子（京都大学）

③懇親会

研究報告会終了後、カフェテリア「Mare（マーレ）」にて懇親会を開催する予定です。

日本農業史学会事務局

office@agrarian-history.sakura.ne.jp

郵便振替口座 00180-9-20117

（連絡先）〒606-8502：

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻

比較農史学分野気付

Tel： 075-753-6185(伊藤)、Fax 075-753-6191